

2003 年実施

今年の山口筆記を受けたので、その内容を報告したいと思います。

生命科学と英語だったのですが、英語はあまり覚えていないので生命科学の内容だけになります。

誰か英語の部分を覚えている方は教えてください。また生命科学の部分の補足もお願いします。

◆. 必須問題 3問

1) オルニチン回路 (10 箇所穴埋め)

-A4 程度の文章を読んで、その箇所箇所に空欄がある。

肝、腎臓、シトルリン、尿素の化学式などを答えさせる簡単なものだったが、一部は「1998 年に NO に関するノーベル賞を取った者の名前」などがあつた。

2) クローンについて (4 問)

1. 肝細胞、マクロファージ、リンパ球、乳腺細胞、神経細胞の中で、クローンへ移植する核を取るのに

一番適していないのはどれか。またその理由。

2. 3. 4. 答えはわかるのですが、質問内容をわすれました。

3) クエン酸回路

- 1) 解糖-
- 2) クエン酸回路-
- 3) 水素伝達系-

上記にあてはまるものを、下記からすべて選びその番号を書け。

◆ATP 産生 ◆ADP 産生 ◆脱 H₂ ◆脱 CO₂ ◆H₂O 消費 ◆H₂O 産生 ◆O₂ 消費

2. クエン酸が完全酸化した時の、◆化学式

◆クエン酸 3mmol に必要な酸素の

mol

◆. 選択問題 (3 問中 2 問を選ぶ)

1) 神経 (穴埋め 20 問)

ホメオスターシス、自律神経、交感神経、迷走神経、ノルアドレナリン、アセチルコリンなどを書かせられる。

又交感神経は瞳孔を()、胃腸の活動を()、

副交感神経は唾液分泌を()、膀胱を()。等の基本的な

問題でした。

又、放散、輻射などを答えさせるものもありました。

2) 生態-共生、寄生等。

選択していないので全く覚えていません。

3) 様々な選択問題-10 問

◆体液性免疫とは?

◆外胚葉から発生しないものは?

◆血液に Ca を入れると何が起こる?

◆血友病についての簡単な遺伝計算問題。

◆脳下垂体から分泌しないものは?

等等。

山口の面接試験にしばって、先の質問などの回答にしたいと思います。

集団討論、山口の2つ目の面接試験(初日の午後)が確かこれでした。(グループ作業と言う名前だったかな・・・?)

これはやってる時から思ったのですが、グループの調和が必要なんじゃないかなと言うことです。

というのも、私のグループは、数名、たまたまその時のテーマに精通してる人がいたため、その人たちが取り仕切ってしまい、しかも相手を打ち負かすことに

注力していったため、端から見てたらバラバラに見えたと思います。

集団討論で相手側を打ち負かすのがポイントではありません。

いかに、相手の言い分を理解し、それに対し、どう理論立てて反論などをするか・・・ここだと思います。

また積極性を見てもらおうと、めったやたらと発言しようと思いますが、ポイントをついた発言がなされている方が、回数より重要だと思います。

一応、いろいろな人の番号(相手グループ、集団面接で一緒だった人など)をメモしてもって帰りましたが、集団討論だけじゃないとは思いますが、集団討論

で私のいたグループからは誰も合格者を出していませんでした。

まとめますと、

- ・グループとしての協調性を出すよう努力する。
 - ・相手の言ったことに対しての反論でなく、その論旨を理解し、理論立てた反論をする。
 - ・回数は気にしない。(あまりにもしな過ぎは行けないと思いますが)
 - ・相手を言い負かすと言うことが採点される訳ではない。(と思う)
- と言うところでしょうか・・・

ディスカッションは、よく分かりませんが、まあ上記まとめの中の2番目の項目が重要だと思います。

医師と言う仕事に置き換えれば、分かるかな・・・

やたらとプッシュプッシュって感じの人より、じっくり考え(時間をかけてと言う意味ではない)、ちゃんと筋の通った診断を下せる医者の方が良いよ

ね・・・と言う感じかな。

【9月5日】

朝、医学部に集合し、バスにて試験会場兼宿泊地である厚生年金センターへ移動。

最終的に、33名が出席。(ということで、最終競争率は3.3倍)

●9:30ー 集団面接

5名ないし6名のグループに別れ(男女比は大体どのグループも同じになるように調整されてました)、1グループ1時間の面接。

面接会場は3ヶ所で同時進行し、各会場とも面接官は4名でした。

聞かれた内容は、面接を行った部屋により違ってるようでした。

私のいたグループは

- ・「自己犠牲」という言葉をどう思いますか？(医師と言う仕事だとなかなか自分の時間が持てないと言うような前置きの後)
- ・タバコについて

と言うような質問で、がちがちの医療関係について聞かれてる感じではありませんでした。

が、何故か皆医療に関係させて答えようとしてたように聞こえました。

面接官が各1問づつ聞いて来たので、大きく分けて4問ありましたが、忘れてしまいました。(^^;

●13:00ー17:00 集団討論(してる様子を面接?)

ここでも5名ないし6名のグループに別れ、同じ人数同士のグループが同じ面接会場に行きました。

が、面接会場はグループ面接を行ったところとは別のところでした。

最初、一人3分という持ち時間を与えられて、自己紹介&自己PRを行う。

その後、集団討論(ディベート?)の流れについて説明を受けました。

テーマは

「ゆとり教育について」と「少年犯罪の厳罰化」にそれぞれ反対の立場になって、グループ内で討論し、ポスターを作成。(道具は全て用意されてます。イミダスが唯一の資料)

その後、ポスターを貼りだし、それについて発表し、その後、もう一方のグループが賛成の立場になり、討論すると言うものでした。

これを繰り返します。

だから「ゆとり教育について反対」意見に回った人は、「少年犯罪の厳罰化に賛成」という意見を持たされる訳です。

グループ内で議論してる時から、資料(ポスター)を作ってる時まで、面接官の先生は、周りをうろろうしたりして、様子を見てたようです。(作業に夢中であり気になりませんでした)

●19:00ー 夕食&懇親会

夕食から懇親会まで、先生方が適当に散らばったところに受験生が座って夕食を取りながら、話をしたり、懇親会ではお酒を飲んだりしました。

いろいろなお話を聞けて、結構楽しかったです。

ちよいとお酒の量が少なかったかな... (^_^;

【9月6日】

●9:00ー 個人面接

ここまでで一度も行っていない面接会場に各自が行くようになってました。つまり、全ての面接官が何らかの形で全ての受験生に接するように配慮されてた訳です。

面接時間は一人20分。

面接官はもちろん4名。

ドアを開けたら大広間(結婚披露宴で使える会場です)に4名の先生が座ってるというシチュエーションが広がってたので、いきなり緊張しましたが、受験生の所にも、机があったので、椅子だけのところに座って面接するよりは、リラックスし易かった気がします。(私だけ?)

聞かれた内容は、他の学校で個人面接を受けていれば、大体内容は想像出来ると思います。

面接は終わったものから、流れ解散です。

が、駅まで厚生年金センターからバスを出してもらえ、その時間も決められてますので、終わってすぐ帰れると言う訳ではありません。(事情があれば帰れるでしょうが...)

去年の様子が、8月27日に Oryzia@ 島根医科より投稿がありました。大筋では同じ流れでした。

これにて私の学士編入試験の全日程は終了です。

ということで、恐らく私の投稿(帰りの電車の中シリーズ?)もこれが最後です。(笑)

初めての挑戦で良くここまでやれたもんだと思います。

いろいろと、このMLのお蔭で、得体の知れない医学部の学士編入試験について有益な情報を得ることが出来たお蔭だと思っております。

この場を借りて、管理人さんグループをはじめとする読者の皆さんにお礼を申したいと思っております。

ありがとうございました。

一日目: 集団面接とディベート

集団面接: 5名程度のグループに分けられ、数人の面接官の質問に答える。ある質問に対して、一人一人順番に答えていく形式で、手を挙げて随時発言していく感じではない。

質問の内容はごくオーソドックスで、

- ・大学・大学院での専攻
 - ・志望動機
 - ・入学後の展望
 - ・AO入試の目的をどう理解しているか
 - ・今までに挫折した経験はあるか
- また、社会ネタとして

・学力低下が叫ばれているが、それに対する自分の考え
・真の国際化とはどういったものと捉えているか
というものもあった。

脳死とかゲノムとかクローンといったガチガチの医学ネタは全く無かった。また、面接官によって質問の内容は違って、別の部屋で試験を受けたグループは「王と長嶋、医者に向いてるのはどっち？」という???な質問もあった模様。

ディベート:これまた5名程度のグループに分けられ、2グループが課題について賛成・反対の立場に分かれ議論する。どちらのグループが賛成側か反対側かは決められており、自分の好みに関係なく、与えられた立場から議論を進めていく。題目は「オリンピックの商業主義化について」であった。何故か顔合わせの段階で一人5分の自己アピールタイムが与えられるが、突然だったため皆苦戦する。今年もやるかどうかはわからないが、準備しておいた方がよいかも。

続いて60分間の時間を使い、与えられた百科事典・マジック・模造紙を使って資料を作りつつ、作戦を練る。その後、両グループがプレゼンテーションを行い、それについて挙手しながら発言、議論を進めていく。全体を通して、チームワークと適切な役割分担がカギとなる。

※交流会

試験が終わると、夕食+先生方との交流会。採点の対象にはならないと告げられてはいたものの、最初は皆緊張気味。しかし、宴(?)が進むにつれて和やかなムードになり、いろいろと興味深い話を聞かせていただく。なんとお酒まで出てくる。私は酒をつがれるままガンガン飲んでしたが、さすがにほとんどの人は飲んでいなかった(数名を除く。ただ、飲んでた人も合格者しているのでご安心を)。

二日目:個人面接

いくつか試験会場があり、その中の一つの部屋に割り振られる。順番によってはかなり控え室で待たされることに。

受験生1人に対して試験官4~5人。時間は30分程度であったと記憶している。質問の内容は

- ・昨日の試験の出来、自己採点で何点か?
- ・課題作文の内容について、かなり具体的に
- ・現在の研究室での自分の役割(大学院在学中であったため)
- ・指導教官は受験に対してどう言っているか

一日目の集団面接に比較すると幾分圧迫感があり、厳しい突っ込みも入れられる。しかし、質問の内容は常識的で予測できる範囲内であるし、執拗に苛められることはない。

以上、私の記憶による再現ではこんな感じだったと思います。残念ながら私は最終合格者に残ることはできませんでしたが、このMLから一人でも多くの合格者が出ることを願っております。

うちの大学(島根医科大学)は28日に書類の結果発表だったと思います。こちらを受験される方も、がんばってください!

それでは。

8月22日

合格者41名中、6名ほどが欠席の中、番号毎に4つのグループに分けられました。

●病院見学。

見学したのは、リハビリテーション部・材料部・周産母子センター・検査部・先進救急医療センターの5ヶ所。

午後からということで、病院の忙しい時間を外して行われていたので、バタバタした感じが無く、応対して頂いた医師の先生方も、こちらからの質問にきっちり答えて頂け、非常に良かったと言う印象を持ちました。(大学病院のような大きな病院の中で日頃なかなか見る機会って無いですからね。)

個人的には、材料部で病院内の物品を滅菌・消毒・殺菌したりするとても大切なところを中に入って見せてもらったことや、先進救急医療センターのICUやCCUを実際に見せてもらったことが印象的でした。

あと、周産母子センターでの未熟児を見れた(窓越しに見かけた?)ことも印象的でした。

まだ独身だかんね...(^_^;

8月23日

昨日とはグループ名こそ変わったけど、メンバーは同じで、この日も行動。

●カリキュラム説明

学内LANシステムを使った電子シラバス(一部はインターネット経由で閲覧出来ます)を実際に使って、説明を受けました。

またユニット制という山口大独特のカリキュラムについても説明を受けました。

こうなると、学生生活にはノートPCは必須ですなあー

おいらの使ってるこのPC、受かったら買い替えないとまずいかなあー

こうして説明を受けたことで、インターネット経由で見れる分を覗いても、どういふことなのか分かり易くなりました。

以前覗いてみたけど、さっぱり理解できなかったんですね...(^_^;

●学士編入者(先輩)への質問タイム

昨年、学士編入試験で合格され、今年から勉強されてる方2名にきていただき、実際にぶっちゃけた質問をする時間を取って頂きました。

入学してからの不安なことや、実際に感じたことなど、差し障りの無い範囲で、しっかり回答して頂きました。

文系出身と理系出身という対照的な2名だったのも良かったかな。

●面談

正直、これが一番気になってました。(^^;

一応、試験の可否には関係無いとアナウンスはされてたけど、面談...

これは、医学部の幾つかの研究室の先生と受験生1名という1対1での面談でした。

いろいろな研究室に割り振られ、また面談も各研究室毎にスタイルは様々なようでした。

終始和やかに話をしたところもあれば、3次試験の面接かと思うような感じのところもあれば、研究室でやってることを見せてもらったり...

各先生のところには、履歴書や自己推薦書などの提出書類は回ってるようで、中にはそれをしっかり読んで、下線を引いてる先生もいらっしやれば、机の上に置いてあるだけという先生もいらっしやったようです。

面談中、何かしらのチェックをしてる素振りはありませんでした。

(まさか、盗聴なんかしてないでしょうし... (笑))

時間的には約30分ほどでしょうか...

私は話をしてただけですが、結構あつという間に終わってしまいました。

何となく、様子からして、事務局(と言うのでしょうか?)側にあとから各研究室から、何かしらの面談についての書類を提出するようでした。

となると、やっぱり合否に影響するの?

うーん、まあしないといってるんだから、しないんでしょう！（信じるものは救われる？）

●医学部施設見学

医学部内の図書館と、遺伝子研究を行ってるところを見せてもらいました。どちらも特に感想は無いんです...ヘーヘーなるほどおーっという感じ。

●体験授業

学内 LAN を使った講義だったら良かったんですが、Primary Care について、実際に授業で使う教材(レジュメ)を使って、授業を受けました。

時間の制限上、慌ただしいグループ間でのディスカッションや、医師と患者に分かれてのロールプレイングでした。

ロールプレイングは、面白い授業だと思いましたが、やっぱせつかく体験授業なんだから、山口大がウリにしている電子シラバスを利用した授業をちらっと覗いてみたかった気がしました。(ノート PC を揃えると言う問題がありますが... ID とかはこの日専用のものを設定すれば、出来なくない気がしました。)

といった感じでした。

多少(?)、私の個人的な意見も入ってますが、ご勘弁下さい。

最後に感想文を書く時間もありましたので、そこで改善点でも書いて下さいと言われてたので、そこでの感想文の結果、来年は多少変わってるかもしれません。(ということ、来年に向けて、予めお断りしておきます)

●学科試験(2時間)

・必須問題 3 問 選択問題 2 問(from 3 問)

・必須問題

(1) エタノールの酸化を扱った問題

化学反応式の記述(エタノールの酸化・アルコール発酵)

モルの計算問題(化学式の係数から読み取るって問題)

(2) ヘモグロビン... 語群からの選択問題

赤血球についての記述の穴埋め問題

グラフの読み取り

(3) 脳--神経系(?)... 穴埋め問題

・選択問題

(1) 進化論を交えたちょっと生物史的な穴埋め問題... 語群からの選択問題

(2) いろいろな毛色の問題(ミックスかな?)

特徴のある蛋白質の名前(5 問)

能動輸送の問題

ATP の算出モル数とその反応経路の名前を挙げる問題

神経の情報伝達に関する問題

(3) 遺伝の計算問題

遺伝病の発現率を算出

それぞれ 20 点の配点(計 100 点満点)

必須問題

(1) は各 2 点で、最後の 2 問は計算がちょっと多かったので 3 点

(2) 各 2 点

(3) 各 1 点

選択問題

(1) 各 2 点

(2) 各 1 点 or 2 点

(3) 20 点

●小論文(2 時間半)

3 問全て英文、解答は日本語(和訳の問題無し)

辞書は学校サイドから配布あり

100 点満点(詳細の配点は明記されてなかった)

(1) 日本政府の科学技術振興 5 年計画(?)を扱った文章

(2) 交通事故死者数と自殺死者数の発表時期が違うことについて扱った文章

引用:Asahi Weekly

(3) 蘇生の現場における患者の家族立ち会いについて扱った文章

私の感想

・学科試験

正直、簡単でした。

内容的には、高校生物をマスターしていれば問題ないと思いました。

化学が 1 問ありましたが、内容的には簡単なので、化学 1B というセンター試験程度の内容(?)を理解してれば問題無いでしょう。

学科試験では、点数の差が出ないような気がします。

・小論文

時間的にはちょうど良いくらいですが、英文をしっかりと理解しようと辞書を引きまくってしっかり頭の中で和訳していると時間が足りなくなるような気がします。

問題は自分の意見を述べたり、課題文の要約のようにはばりばりの小論文なので、課題文が英文というのに惑わされてはいけない... (^_^;

あと日頃、電子辞書に慣れ切ってる人は、こういう辞書を配布されるタイプの対策として、やっぱり紙の辞書の使用に慣れておくのもひとつの対策かもしれません。

あと、やっぱり辞書は自分の辞書が使いたい。大きい辞書を持って来る来ないは受験生の裁量に任せれば良い気がします。辞書で差が出るとは思えないし、デカイ辞書を持って来ても、引くのが大変だし...

●学科試験(2 時間) ・必須問題 3 問 選択問題 2 問(from3 問)

・必須問題

(1) 問題文 密閉ビン中のエタノールがお酢(酢酸)に変わった。

・何が起きたか?

・生じた化学反応式は?

・エタノールから酢酸への変化量の計算

問題文 酵母菌の好気呼吸について

・酵母菌が嫌気状態で行う反応は?

・好気と嫌気呼吸が同時に生じている時の、酸素と二酸化炭素の増減値からグルコースの消費量を計算する。

(2) ヘモグロビンについて

その構造や働きに関する語句選択問題 10 題

(3) 脳--神経系について空欄補充問題 20 題

・脳の構造 脳死や脊髄と関連して

・中枢神経と抹消神経の分類

・選択問題

(1) 進化論を交えたちょっと生物史的な文章 語句選択問題

人名や経緯など

(2) いろいろな毛色の問題

・説明に合致したタンパク質を答える

アルブミン、グロブリン、フィブリノーゲン、コラーゲン?、ケラチン?

- ・能動輸送の問題
- ・好気呼吸における3段階の名称と、総ATP生成量は？
- ・活動電位が生じる際に移動するイオン種と細胞内外の電圧の正負は？

(3) 遺伝の計算問題

- ・常染色体上に存在する優勢遺伝子による遺伝病について集団に存在する遺伝病の発現率と両親の発現型が与えられたときの、子供の発現状態に関する計算

@ 高校生物の範囲でした。高校の問題集で対策が立てれると思います。

●小論文(2時間半) 英文3題

(1) 日本政府の科学技術振興5年計画(?)を扱った文章

- ・要約問題 200字
- ・この5年で生命、情報、環境科学がどのように発展したか? 400字

(2) 交通事故死者数と自殺死者数の発表時期が違うことについて扱った文章

- ・要約問題 100字
- ・事故死と自殺の取り扱いの要約とそれに対する見解は? 200字

(3) 蘇生の現場における患者の家族立ち会いについて扱った文章

- ・要約問題 200字
- ・文章で示された内容に対して、医師としてどのように取り組んでいくべきか? 400字

@ 英語にかじりついていたら時間がなくなります&なくなりました。

高校生物をマスターしておくこと、内容をまとめて手早く文章にすること、が必要でした。

以上です。

2000

必須問題の1つ目は遺伝に関する問題。
2つ目は細胞、光合成に関する穴埋めに酸素がどのように生物に利用されているか、という記述。
3つ目がDNAでなかったでしょうか?
DNAに関する穴埋めと、2重らせん構造を描きなさいというものがあり、自分の芸術センスの無さにがっかりしました(笑)

選択問題は

- 1つ目が脳死判定に関する質問がありました。馬鹿なことを書いてしまい、思い出すと恥ずかしいです・・・
- 2つ目が浸透圧の問題。
- 3つ目が免疫に関する問題でした。

多くの問題が穴埋めと記述で構成されていて、点数配分なども書かれていました。

内容的には高校生物で充分だと思いました。

(でも私はできませんでしたが・・・)

おそらく平均がかなり高いと思われます。

小論文は1つ目はNatureの記事からでした。

新聞記事のような感じで、細胞や組織の利用に関するガイドラインについてでした。

2つ目はイギリスの研究機関に関するものでした。

企業と研究機関との共同研究に関する意見を求められました。

